

特集

寄り添い、支える ～介護職という仕事～



超高齢社会となり、ますます必要とされる「介護職」。その現場は多忙なときもありますが、笑い声が絶えず、皆さんいきいきと働いています。この特集では、寄り添い、支える、介護職の皆さんを取材。その仕事の魅力などを紹介します。

問合せ▶介護保険課(☎297-1018)

誰かの支えが必要に なったときの希望

自分や家族が、日常生活を送るうえで、誰かの支えが必要になった。そのようなときに頼りになるのは、「介護職」として働く皆さんの存在です。彼らは、食事や入浴の介助、リハビリの手伝いなどをしてくれます。日常生活に支えが必要になったときに寄り添ってくれる「介護職」の皆さんは、いざとなったときの希望そのものです。

ますます高まる

介護職の需要

2025年10月1日時点で、水戸市の高齢者人口は、7万3601人。市の人口の約3割が高齢者です。この数字は年々増え続け、2050年には9万人近くになると推計されています。

また、2025年8月時点での市の要支援・要介護認定者数は、1万4638人。こちらも2050年には2万人近くになると推計されており、介護職の需要は、増え続けていきます。

たくさんあります！介護サービス

介護施設に通ったり、宿泊したり、自宅に来てもらったり。ケアプランに基づいて提供される介護サービスは、20種類以上あります。

例えば…

・通所介護(デイサービス)

デイサービスセンターで、食事や入浴、レクリエーションなどの介護サービスを日帰りで受けることができます。

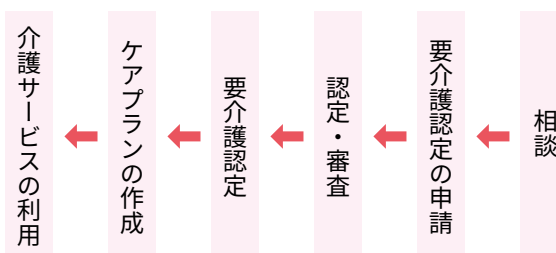
・短期入所生活介護(ショートステイ)

短期間宿泊して、食事や入浴などのサービスを受けることができます。

介護が必要かな？と思ったら

かかりつけの病院や介護保険課、各高齢者支援センターに相談してください。本人だけでなく、家族からの相談も受付けています。

介護サービスを利用するまで



ショートステイ中

突然不安にかられる夜も

丁寧に寄り添う

あずみ苑 水戸 介護職員

佐川絵理夏 さん



**正解がない
だからこそ面白い**

そのように語る佐川さんは、今でも覚えている出来事があるといいます。ある日、認知症を抱える利用者が夜中に大声を出してしまふことがありました。研修で学んだおりの対応をしましたが、一向に改善しません。どのように声



**利用者の性格に応じて
一人一人と向き合う**

「介護職として働いてみたいと思ったきっかけは、私の祖母にあります」。そう話すのは、昨年の2月から介護職員として働く佐川絵理夏さん。「祖母が介護施設に入所し、職員やほかの利用者の皆さんと穏やかに、楽しそうに過ごしていた様子を見て、私もこの仕事に携わりたいと強く思ったんです」。

現在、佐川さんはショートステイの利用者のために働いています。健康状態の確認やさまざまな介助はもちろんのこと、利用者が宿泊するため、夜間の対応にもあたります。「夜中、急に不安になったり、不穏になったりして声を出してしまうような方も確かにいます。そのようなときも、一人一人の性格などに応じて丁寧に向き合っています」と話します。

をかけても落ち着いてもらえず、無力感を覚えたそうです。この日は、先輩からのアドバイスを受けながら対応しましたが、こうした出来事がきっかけで、佐川さんは、利用者一人一人の持病やその日の健康状態などをよく見ながら接することを心がけ、対応の幅が広がりました。「こうすればうまくいく、という正解はありません。しかし、そういったところにやりがいを感じます」と力強く話します。

佐川さんがこの仕事を始めてもうすぐ3年。さまざまな経験をとおして、日々スキルアップしている実感があると言います。「介護福祉士の試験を受けるための研修を修了したので、次は介護福祉士の資格を取りたいです。ゆくゆくは、利用者などからの相談を受ける、生活相談員という道もあるのかなと考えています」と佐川さん。より多くの介護を必要とする人たちのために働きたいという彼女の明るく前向きな姿勢は、利用者のみならず、施設で働く皆さんにも元気を分け与えています。

佐川さんのある日の1日

9:00	出勤、引継ぎ
9:00～12:00	入浴準備、入浴介助
12:00～13:00	昼食介助
13:00～14:00	休憩
14:00～15:00	集団レクリエーション、体操、工作レクなどの介助
15:00～16:00	おやつ介助、レクリエーション介助
16:00～18:00	記録、清掃、リネン交換、排せつ介助
18:00	退勤

利用者の声

職員の皆さんに安心してお任せしています

(80代女性)

月に2～3週間ほどショートステイを利用しています。ここでお世話になっているおかげで、家に戻ったときも家族といい関係が築けています。

職員の皆さんとは、普段から気軽にお話ができており、いろいろなことを安心してお任せしています。これからもよろしくお願いします。

デイサービスをとおして

自らできることを増やす

ためのお手伝いを

あずみ苑 水戸 介護職員

松島ゆかり さん



**利用者に関わる時間を
できるだけ増やしたい**

松島ゆかりさんは、15年にわたり、介護を必要とする方のために力を尽くしています。

松島さんの仕事は、デイサービスを利用している方の生活のお手伝い。一人一人の健康状態の確認や、食事・入浴・トイレの介助など、一日の中でやることはたくさんあります。そんな中でも、松島さんが意識していることは、一人一人と接する時間を増やすこと。

「介護職は常に時間との戦いです。そのような中でも、利用者の皆さんと関わる時間を増やしていきたいんです」。そう語る松島さんは、介助しているときだけでなく、食事後の清掃作業中やレクリエーションの準備中にも、利用者にあたたく話しかけます。「今日のご飯はおいしかったですね」「体調はいかがですか」。松島さんの周りは、笑顔であふれています。

**できることが増える瞬間
を見届けるのがうれしい**

松島さんがやりがいを感じる瞬間は、利用者のできることが増えたとき。松島さんが勤めている施設では、手先の感覚の維持などを目的として、マスコットづくりを行っています。ある利



レクリエーション中の利用者と松島さんたち

用者がなかなか作れずにいたため、松島さんが寄り添い、ときには手伝うことで、ようやく完成させることができました。

後日家族から聞いた話では、その利用者はマスコットを家に持ち帰った後、リビングに大切に飾っているのだそうです。

松島さんは「初めはうまくできずに、私たちが手伝いながらしていた作業も、次第に自力でできるようになることもあります。皆さんの役に立てていると実感できるし、この仕事をやっていてよかったなど感じます」と話します。

常に利用者のことを最優先に考え、楽しい雰囲気を作りながら、自分のできることを増やす手伝いをしている松島さん。利用者のために、今日も明るく働いています。

松島さんのある日の1日

8:30	出勤、引継ぎ、送迎準備、備品準備
8:30～ 9:30	利用者の送迎
9:30～10:00	入浴準備
10:00～12:00	入浴介助
12:00～13:00	昼食介助
13:00～14:00	休憩
14:00～15:30	集団レクリエーション、体操、工作レクなどの介助
15:30～16:00	おやつ介助
16:00～16:30	送迎準備
16:30～17:30	利用者の送迎
17:30	退勤

利用者の声

職員の皆さんのおかげでとても楽しい

(90代女性)

職員の皆さんは盛り上がるレクリエーションを企画してくれるので、ほかの利用者ともお話ししながら楽しめます。家にこもっていたときより、ずっと楽しいです。

いつもやさしく接してくれてありがとう

(80代女性)

現在夫婦で通っています。いつもやさしく介護してくれる皆さんのいない生活は考えられません。本当にありがとう。

介護職の魅力を知ってほしい！

ちいすけヤング



「ちいすけ」とは、「地域の助っ人」を略した言葉。市では、NPO法人「ちいきの学校」と協働で、高校生に介護の仕事に触れてもらい、介護職の魅力ややりがいを感じてもらう取組「ちいすけヤング」を行っています。

参加者は、介護に関する講座の受講や介護事業所との交流会を経て、介護施設で実際の業務を手伝います。

ちいすけヤングについての動画はこちら！



Report

介護の仕事、体験してきました！

「ちいすけヤング」として、今年度はのべ23名の高校生が、介護施設や介護サービス事業所に手伝いに行きました。

今回、8月に介護事業所「あずみ苑水戸」に行った2人に密着。実際の仕事を体験した感想を伺いました！



水戸南高等学校1年
島崎 朋花 さん

水戸商業高等学校1年
木村 こころ さん

「さまざまなボランティア活動に挑戦したいんです」。そう語る2人は、それぞれの高校で「ちいすけヤング」の案内を見て、参加することを決めました。

最初は、利用者の前で少し緊張した様子の2人。「そんなに緊張しなくていいよ」と、利用者の皆さんが笑います。安心したのか、2人の表情も少し柔らかくなりました。

この日2人が参加したのは、利用者の皆さんと触れ合うレクリエーションの手伝い。マスコットづくりでは、ハサミで形を整えるのを手伝ったり、パーツをつなげたりして、一緒に作成しました。「とってもかわいくなってきたわ」。完成したマスコットを見て、利用者の皆さんは大喜び。その表情を見て、2人も嬉しそうな笑みを浮かべていました。



その後に行った、お手玉を使ったかるた取りのゲーム也大盛り上がり。かるたの場所を教えたり、

読み手になったりして、利用者と楽しく交流をすることができました。

2人とも、「ちいすけヤング」に参加して、初めて介護サービス事業所の中へ入りましたが、そこで2人が目にしたのは、介護職員の皆さんのスキルの高さ。「皆さん、利用者をスムーズに抱き上げてお風呂に入れたり、作業中も利用者の方と途切れなく会話したりしていて、すごいです」と驚いていました。

「これまでは介護職の具体的なイメージを持てていませんでしたが、今回体験してみて、介護職への理解



が深まり、結構楽しんだな、と感じました」と話した2人。介護職の魅力とやりがいに気付いた時間となりました。



Q 「介護職」を目指すときに、支援制度などがありますか。

A 新たに就労を目指す人や、再就職を目指す人などに、**さまざまな貸付制度があります。**また、条件次第で、**返還が免除される貸付制度もあります。**

詳細は、県社会福祉協議会ホームページをご覧ください。



・介護分野就職支援金貸付制度

対象▶介護職員などに就業したことがなく、新たに介護分野で就労を目指す方

貸付額▶20万円以内

・介護福祉士実務者研修受講資金貸付制度

対象▶介護福祉士の資格取得を目指して実務者研修施設に在籍している方

貸付額▶20万円以内

対象経費▶実務者研修受講費、研修にかかる交通費、資格取得のための参考書購入費など

・離職介護人材再就職準備金貸付制度

対象▶介護の実務経験が1年以上あり、再就職する方

貸付額▶40万円以内

対象経費▶教材・学習費、仕事に必要な被服・用品費など

問合せ▶県社会福祉協議会(☎350-8366)

Q まずは体験してみたいのですが、可能でしょうか。

A 可能です。

受入施設は、県福祉人材センターホームページをご覧ください。

また、福祉に関する仕事を紹介しているほか、各種イベントも開催しています。



受付日時▶月～金曜日 午前9時～午後5時 ※祝日、年末年始を除く。

問合せ▶県福祉人材センター(☎244-4544)

介護の仕事

Q & A

「介護の仕事に興味はあったけど、どんな職種があるのだろう」「一回体験してみたいけど、できるかな…」こういったさまざまな疑問にお答えします。

Q 「介護の仕事」には、どんな職種がありますか。

A **さまざまな職種があって、それぞれに役割があります。**

・介護職員

主に介護施設の入所者に対して、入浴・排せつ・食事などの生活全般を援助します。

・訪問介護員(ホームヘルパー)

介護が必要な方の自宅を訪問して、身体介護などさまざまな日常生活上の援助をします。

・生活相談員

主に介護施設の入所者の相談や援助、関係機関との連絡調整を行います。

・看護職員

介護施設の入所者の健康管理や投薬管理、介護が必要な方の疾病の予防や健康の維持増進を目的とした、医療の立場からの援助をします。

Q 「介護職」の給与水準は、どうなっていますか。

A 常勤の介護職員の月額給与(賞与込み)について、令和5年は32.4万円でしたが、令和6年は33.8万円に**上昇しています**。(出典：令和6年度介護従事者処遇状況等調査)